

## 働き者の富ちゃん

次兄富一郎「富ちゃん」は小学校を卒業してから兵役で入営するまで。生家で農業を手伝っていた。私は十七才の時徴用で横須賀に行つたけれど、弟の欽ちゃんは独学で仙台の高校を卒業し、東京の日大医学部に入った。

富ちゃんは生家で兄雄一郎の農作業を手伝っていたが、兄雄一郎が入営した後も、自分が入営する迄一生懸命働いて居た。

富ちゃんは世間からは働き者の評判になつて居たが、実は弁当を持って行き、お昼の食後昼寝をする。畑や田圃の端で、横になれば満腹だし、気持ちよく、ぐーぐー深い眠りに入る。目が醒めたら太陽は低く夕方である、慌てて飛び起き、一生懸命暗くなるまで働く。そして家に帰つて来るから、知らない人は「遅くまで働くよい若者だ」と感心する。

富ちゃんの入営後、今度は泰ちゃんが小学校を卒業し農業を手伝うようになった。泰ちゃんは本当に真面目で、兄嫁と農作業に精を出していた。終戦で兄が復員して来てから、父の薦めで、故郷出身の国鉄の大幹部のつてで、鉄道員になった。

その後の国鉄の人員整理でも、泰ちゃんは首にならず、定年まで真面目に勤め上げた。故郷出身で出世した人が多く、何かしらお世話になつた人が多かった様だ。